となる。

2.7　開発生産性に優れたフレームワークで短期導入実現

実績豊富な開発フレームワークとコンポーネント化された部品を組み合わせることで，スピーディかつ柔軟なシステム開発が可能となり，短期間での導入を実現する。 加えて，導入後の設備変更，仕様変更に対しても柔軟に対応可能である。

3.　J-MEXs Lite の機能概要

図 2 に -　　の機能構成図を示す。

3.1　共通管理

システム共通機能（ユーザー管理，メニュー管理，セキュリティ管理，各種マスタ・パラメータ設定）を管理する。また，多言語化対応マスタにより，画面項目の切替制御も行う。

3.2　原料受入管理

原材料購入予定から，入出庫・倉庫間移動実績を管理する。また，倉庫からのロット分割の払出し管理も可能とする。

3.3　現品工程管理

原材料～仕掛品～製品（部品）までの現品管理を行い，工程・機械別でのリアルタイムな進捗や在庫を管理する。また，工程間のデータ連携管理や途中工程での保留品管理も行う。

3.4　実績管理

各工程へのリアルタイムな作業指示を行い，生産実績の収集・履歴情報を管理する。

3.5　品質管理

現品ロット追跡機能（製品から遡るトレースバック検索，原材料から追いかけるトレースフォワード検索）を実現する。

3.6　帳票管理

共通指示画面・簡易開発部品により，容易に帳票（定型帳票，　　）やレポート・グラフ作成を可能とする。

4．おわりに

個々の生産現場では，すでに生産性向上，生産計画精度向上やトレーサビリティ情報管理について，さまざまな工夫をしていると思われるが，以下のような「現場の声＝課題」を持っている場合は，これまでの -　　導入実績で培ったノウハウ／業務知識を用いて，課題解決できると考える。

- 生産実績，作業記録などが手書きのため，システムに反映させるための入力負荷工数がかかる上に誤入力が発生しているのを解決したい。
- トレーサビリティ情報が手書き帳票で管理されているため，調査が必潜渝萌侵蓮 P8ｰdS　q考

え滝鹽鑪鑪陸瀘焼会痩醸舰　　Ø î